

社団法人尾北医師会

地域ケア協力センター通信

第3号 2009年1月



尾北医師会 地域ケア協力センターでは、2009年も尾北地域の地域ケア推進のため、活発な事業展開を行ってまいります。なにとぞご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

地域ケア協力センター通信第3号では、「コミュニティケア最前線」というコーナーを設け、地域ケアの様々な事業についてご紹介いたします。今回は、高齢者の相談窓口としての「地域包括支援センター」に関する特集と、地域ケア協力センターの紹介を行います。

また、スタッフおすすめの書籍などを「心に残った一冊」としてご紹介します。

特集 コミュニティケア最前線 PART1

地域包括支援センターは、高齢者の総合的な相談窓口です。

高齢期をいきいきと過ごすためには、心身の健康を保ち、持病の治療や管理を行う事が大切です。あわせて、心や身体の機能が低下することにより、日常の生活面においてさまざまな支援が必要になります。

地域包括支援センターは、高齢者やご家族の相談を受け、高齢期の心身の状態に合わせた支援を提供する地域の総合的なサービスの拠点として、平成18年度に新しくつくられた相談窓口です。



※成年後見制度…権利擁護の考えのもと、本人に代わって金銭管理や契約等を支援する制度です。認知症や知的障がい等が、比較的軽度の方の利用や判断能力があるうちから利用できる任意後見制度等があります。

※ケアマネジメント…介護を必要としている人や家族の問題やニーズに対して、適切な助言・援助を行うことです。介護保険制度では介護サービス計画を作成し、実際のサービス利用につなげることを指し、主にケアマネジャーの役目とされています。

出典：福岡県介護保険広域連合ホームページ

<http://www.fukuoka-kaigo.jp>

地域包括支援センターの仕事とは？

地域包括支援センターには、保健師・主任ケアマネジャー・社会福祉士などの保健・医療・福祉の専門職が配属されています。

おもな仕事の内容としては、次のようなことがあります。

- ①保健・医療・介護・福祉に関する総合的な相談
- ②高齢者の方々が、地域で自立した生活が送れるための介護予防の推進
- ③高齢者への虐待の防止や早期発見、高齢者の権利を守ること
- ④地域における様々な関係者・関係機関との連携

* * *

高齢期を迎えて体力に少し自信がなくなっても、住み慣れたまちでいつまでも元気に暮らしたいというのは、だれもが考える願いです。そのためには、食生活に気を配ったり、身体や歯を健康に保ち、外出する機会を増やして、自立した生活を送るための介護予防に取り組むことが大切です。

でも * 病気になって身体が思うように動かなくなって買物に行くのも大変だったら・・・

* ひとりで介護するのがつらくて、つい大きな声で高齢者を叱ったり、きびしい言葉をかけてしまっていたら・・・

* 1人暮らしの高齢者の家に、通信販売や家の改築などのパンフレットがたくさん置いてあったり、しょっちゅうセールスが訪ねてきているのを知ったら・・・

こうした高齢者の生活に関わる様々な問題については、高齢者や家族を支える関係者や医療・介護サービスが連携し、総合的なケアを提供していく「地域包括ケア」が大切です。

地域包括支援センターでは、専門家としての知識を活かし、チームを組んで高齢者や家族の支援を行っています。

尾北地域の地域包括支援センター

尾北地域の地域包括支援センターは各市町に設置されています。電話や訪問などで相談に応じてもらうことができます。

犬山市	犬山市地域包括支援センター	犬山市大字犬山字東畑 3 6	0568-61-1800
江南市	江南北部地域包括支援センター	江南市河野町五十間 4	0687-57-2155
	江南中部地域包括支援センター	江南市高屋町大松原 1 3 7	0587-51-3322
	江南南部地域包括支援センター	江南市上奈良町緑 110	0587-55-5470
扶桑町	扶桑町地域包括支援センター	扶桑町大字斎藤字榎 230	0587-91-1171
大口町	大口町地域包括支援センター	大口町伝石 1-35	0587-94-2227
岩倉市	岩倉市地域包括支援センター	岩倉市西市町無量寺 2-1	0587-38-0303

コミュニケア最前線 PART2

地域ケア協力センターはどんなところ？

尾北医師会に地域ケア協力センターが創られたのは、介護保険が始まった2000年4月です。当時の記録によると「医療関係職種と福祉関係職種が連携し、保健・医療・福祉連携のシステム構築」を目的とした活動をするために創られました（尾北医報236号）。

現在、高藤（たかふじ）、平澤（ひらさわ）という二名のソーシャルワーカーが勤務しています。ソーシャルワーカーは「人々が生活する上での困りごと」について相談を受け、社会福祉の制度やサービスなど、ご本人が利用できる様々な資源を活用しながら、困りごとについて解決するための支援を行う社会福祉専門職です。

ところで「地域ケア」とはどのようなことなのでしょう。そして地域ケア協力センターではどんな仕事をしているのでしょうか？これまでの活動と今後の展望について、高藤と平澤が話し合いました。

○地域ケア協力センターでは、これまでどのような活動をしてきたのでしょうか？

主に社会福祉の専門職の養成や質の向上を行い、「地域のケアの量・質を高める」ことを目指した活動を行ってきました。例えば「ホームヘルパー養成研修会（2級課程）」を8年間にわたり行い、317名のヘルパー2級の有資格者を養成しています。修了生の中には、在宅サービスや介護施設で働いたり、NPO法人を立ち上げて介護保険事業所を運営されたりと資格を活かして活躍されている方々が大勢います。また、介護支援専門員の方々と事例検討会を行い、ケアマネジメントの質を高める取り組みを行っています。

さらに介護職として勤務されている方々のための研修の機会が少ないという声を受けて、「介護職員フォローアップ研修会」や、医療と福祉の専門職がともに研修を受ける機会として「地域看護・介護研修会」を開催しています。



高藤

平澤

このように、どちらかという専門職として働いている方々を対象とした活動を中心に取組んできましたが、今後は住民の方々に、福祉や医療について関心を持っていただくための活動をしたいと考えています。

「尾北ホームニュース」に協力をしていただいて「お年寄り体験」を行い、高齢者福祉や認知症について紙面でコーナーをつくっていただくなどして広報に取り組んでいます。

○これまでの活動から、どのような成果があったのでしょうか？

活動を行う上で大切にしてきたことは、尾北地域の福祉・医療・行政機関、専門職の方々と一緒に活動していきたい、ということです。例えばホームヘルパー養成研修会での講師

を尾北地域の行政や専門機関の方々をお願いしていますし、「尾北地区介護サービス事業者連絡会」という会では、介護サービスの質を高めるためにどのような活動が必要かを医療・福祉機関の職員の方々と一緒に考えて研修のプログラムを立てています。また、介護支援専門員の事例検討会には毎年 60 名もの介護支援専門員の方々が参加してくださっています。

8 年間の活動をとおして、地域ケア協力センターのスタッフはもちろん、会議に参加された方々同士の協力関係がいつそう強くなってきたのではないかと考えています。

○こうした活動を踏まえて、今後どのようなことに取り組んでいこうと考えていますか？

地域ケアシステムの理想は、「尾北地域に住まわれている方々が、必要なサービスの情報を適切に、平等に得て、選択できるしくみをつくること」だと思っています。以前病院の医療福祉相談室でソーシャルワーカーをしていたときに、「もっと早く病院にかかっておられたら」とか「もっと早くこのサービスを利用されていれば」この方の生活は違うものになっていたかもしれない、という思いをしたことが何度もあって、制度やサービスを知らないことの不公平さを痛感したことがきっかけです。

困ったときに情報を得るにはどんなしくみがあるといいか？まずは、専門機関同士のつながりを「目に見えるかたち」にしたいと思っています。たとえば、認知症を持つ方が確実に増えていますが、ご本人はもちろんご家族も、サービスを受けるにはどこに相談したらいいか、どんな解決方法があるのかということをご存知の方はそれほど多くはないと思います。なんだか最近様子がおかしいなあ、と感じたとき、たとえばかかりつけのお医者さんで地域包括支援センターなどの相談窓口のパンフレットをみかけたら、あるいは「デイケアやデイサービスを使ってみたら」と声をかけてもらったら、ご本人やご家族にとって相談窓口が身近に感じられて、少し気持ちが楽になるかもしれません。

郡市区の医師会は695医師会（2009.1）とたくさんありますが、ソーシャルワーカーを配置して地域ケアの整備に取り組んでいる尾北医師会はとりわけ意識が高いと思っています。専門機関同士がつながるしくみをたくさんつくっていくことで、住民の方々に「尾北地域は住みやすいところだ」と実感していただけることを目標に、今後も活動してまいります。

心に残った一冊 ～地域ケア協力センタースタッフのおすすめの一冊を紹介します～



『フレディの遺言』 著者：フレディ松川 絵：こころ 美保子

朝日新聞出版 2008年12月

フレディ松川先生は、長年にわたり高齢者医療に携わってこられたお医者さんです。ご自分の臨床体験をもとに、もし自分が認知症になったときどのような気持ちになるのか、大切なご家族には、どんな言葉をかけてほしいかをやさしい言葉で書かれました。

あたたかい言葉と絵によって、認知症の人の想いが伝わる一冊です。